

生徒が選ぶ特色ある支援について

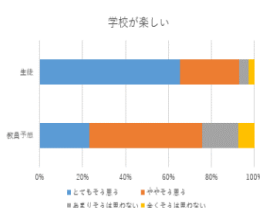
不登校生徒の状況

対象生徒は、登校してもなかなか教室に入ることができず、教科によっては教室に入ろうと決めてもなかなか毎日は続かない様子が見られる。様々な理由で、毎日毎授業は教室に入れない。一方で、当該生徒は「給食の時間だけは教室に行こう」、「明日はこれに取り組もう」と頑張り、少しずつ成長しながら、楽しく毎日を過ごせるようになっている。

具体的な取組

○不登校が生じない学校づくり①

タブレット端末を用いて、全校生徒に向けてアンケートを実施し、「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」「授業に主体的に取り組んでいる」という質問に対する答えを分析し、不登校の未然防止に役立てる計画を立てた。



○不登校が生じない学校づくり②

魅力ある学校づくりを意識し、自分がいることの価値を見いだすことができる学級づくり、行事づくり、授業づくり、ボランティア活動などを旨とした。また、掲示物の工夫や生活ノートを活用して生徒の居場所づくりや絆づくりを目指した。

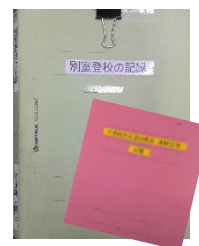


○別室対応による支援

教科や日によって、教室での授業に参加することができない生徒に対する別室支援の在り方について検討した。よりよい支援について、生徒の様子や活動内容などを別室支援員と担任が共有する方法などを、支援員・担当教員・巡回教員と話し合いながら模索した。

○教職員の共通理解

支援が必要な生徒に関して、担当教員・巡回教員・SSWと情報共有して支援に努めた。また、生活指導部会や特別支援委員会にて支援について検討し、別室での様子を記録するファイルを作成し、全教員で共有した。

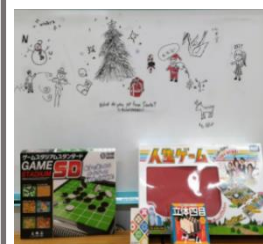


成果

別室支援により定期的に登校できる生徒が増えた。その中で生徒同士がコミュニケーションを図り、別室が安心して過ごせる場となった。また、不登校が生じない学校づくりを意識することができた。

課題

教師が普段の授業等を抱えながら不登校対応に関する様々な対応をするためには、校内体制の整備が必要である。



不登校対応巡回教員の取組について

不登校生徒の状況

対象生徒は、1年次の途中から集団や友達との関わりに困難さを感じ、体調不良などで登校を渋るようになった。2年次には不登校となった。体調が安定しているときに別室登校ができるようになった。登校した際、不登校対応巡回教員との交流を通して、関係を築き、安心して登校できるようになってきた。学年行事にも参加できるようになり、進路を見据えて教育支援センターに通室している。

具体的な取組

○組織体制の強化

生徒支援委員会で生徒の状況を共有し、対応の修正と見直しを随時行っている。特に、学年担任、養護教諭、SC、SSWとの連携を重視して、校内で共通した方針での指導を行っている。

○多様な学びの場

当該生徒は、集団参加への抵抗感が強いため、学校へ登校したときは校内別室支援員が見守る形で対応している。不登校対応巡回教員は生徒へ指導だけでなく、校内別室支援員への支援の提案や助言を行っている。

○未然防止の取組

生徒と教員へ、学校生活意識調査を年3回実施している。意識調査で収集したデータを分析して、不登校の要因を見だし、未然防止につなげている。また、生徒が自発的に関心をもてるような魅力ある学校づくりに活用している。

○活動ファイル

登校をした日の活動を記録するファイルを活用している。登校したら一日のスケジュールを自分で立てて記入する。下校前、その日、学習したことや自分気持ちを記入させている。活動ファイルは、学年、担任へ回覧して支援の様子が分かるようにしている。

成果

集団への苦手さから登校することへの不安をもつ別室登校生徒が、不登校対応巡回教員との交流を重ねる中で、人間関係を構築し、学校への不安が低減している。また、巡回教員が教員に支援の提案や助言を行い、不登校支援への不安低減につながっている。

課題

巡回のため、日数、時間ともに上限がある。

丁寧な対応を行うために互いの連携と協働を深めていくことが大切である。

生徒一人一人に寄り添った心地よい居場所を作る

不登校生徒の状況

対象生徒は、入学時には通常どおり登校できていたが、徐々に欠席が目立ち登校を拒むようになった。2年次にSCとのカウンセリングを保護者と共に行い、別室登校を始めた。別室登校の時間はまちまちではあるが、継続して登校できるようになった。

具体的な取組

○新たな不登校を生じない取組

生活アンケートの作成指導、居場所づくりと絆づくりの教育活動推進のための助言を行った。また、生徒指導の視点を意識し授業観察及び助言を行った。また校内研修を行い教員の意識の向上を図った。

○毎週行う支援会議

生活指導部会内で不登校傾向生徒の検討会を実施している。管理職・生活指導部メンバー・SC・SSW・不登校対応巡回教員が参加している。生徒の思いや学校の願いを踏まえながら、支援策の決定及び修正を毎週行っている。

○多様な学びの場を確保する取組

タブレット端末を活用した不登校生徒の支援を主にオンライン授業及びオンライン面談並びに個別学習などの取組に対する助言を行っている。また、校外の公的機関等についての情報提供及び連携により、支援の充実を図っている。

○個々の不登校生徒への対応の強化

担任等と連携し、電話連絡や家庭訪問、保護者との面談、別室支援した生徒への対応等の強化を図る。

また、各支援の内容等をファイルで全職員に共有し、組織的に支援を行える体制を作った。



成果

当該生徒は、別室対応の充実を図ったことで、前年度よりも登校日数が増えた。また、どうすればより心地よく過ごせるかを生徒同士で話し合うことによって、居場所としての機能を高め、別室では安心して自分の思いを話せるようになった。

課題

安心して通える学校・学級の居場所づくりを組織的に推進していくこと。

個に応じた支援を組織的に行うこと。

自己決定の場の提供から安心感・自信へつながる取組

不登校生徒の状況

対象生徒は、中学校に進学後、欠席が続くようになり、6月に本校に転入した。転入後、数日は登校することができたが、しだいに教室から足が遠のくようになり、別室を利用するようになった。現在は、ほぼ毎日登校し、自習を中心に学習を積み重ねている。

具体的な取組

○別室利用生徒への組織的支援

今年度、不登校解消に向けた取組として別室指導のシステムを確立させた。巡回教員は、週1日勤務し、生徒との個人面談や学習支援を通して、個々の悩みを引き出し、復帰に向けた支援を行っている。SCや担任とも連携し、情報交換を密にとっている。

また、担任に限らず、授業が空いている教員が別室指導を行うことで、教室には入れない生徒も教科指導の進捗状況を知り、質問することができている。

○不登校に関する現状分析

不登校未然防止に向けて、年間3回、生徒向けにアンケートを実施・分析した。「みんなで何かをするのは楽しい」などの項目に関して、生徒の回答を担当が予想した。学年や学級の全体の課題と具体的な対応策を検討し、生徒一人一人の個別支援につなげた。

5 アンケート結果による生徒の実態と教員予想

7年A組の結果 **学校が楽しい**

出席番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	11	12	13	15	16	17	18
教員予想	3	2	3	4	4	3	3	4	3	3	3	3	2	3	3	4
実際の結果	3	4	2	4	3	3	4	4	4	3	4	4	4	3	4	4

出席番号	19	20	21	22	23	24	25	26	27	29	30	31	33	34	35
教員予想	3	4	2	3	3	3	3	3	2	4	3	2	3	2	
実際の結果	4	4	2	4	4	3	2	3	4	4	4	3	4	4	4

 予想よりも高い生徒
  予想よりも低い生徒

○研修会などの内容を共有

不登校対応巡回教員が参加する、都の研修会資料をファイリングし、全教職員向けに回覧し、情報共有に努めている。

○不登校対応のための校内研修

不登校対応研修キットをもとに、職員会議の時間を活用し、不登校対応に関する教員向けの研修を行った。

成果

今年度、別室指導の環境を整備したことで、毎日登校できる生徒が増え、本人たちの教室復帰への意欲が高まった。令和6年度の不登校出現率は2.1%である。都の数値目標は達成しているものの、今後も不登校解消に向けて組織的に取り組む。

課題

不登校対応巡回教員と関係教員との支援会議の調整が難しい。定期的に支援会議を設定するために、時間割等の工夫が必要である。

自己決定の場の提供から安心感・自信へつながる取組

不登校生徒の状況

対象生徒は、入学時には通常どおり登校していたが、後期に入り欠席が目立ち登校を拒むようになる。2年次にSSWとのつながりを機に生活態度や学習に前向きになってきた。3年次には、教育支援センターを併用しながら、週1日程度の登校を継続している。

具体的な取組

○一人1台端末の活用

タブレット端末の機能を活用し、チャットでのやりとりやオンライン面談を実施。自宅からでもオンライン授業に参加。配布資料は事前に所属学級のクラウドにデータでアップロードされている。アンケートを活用し、生徒の状況把握と環境改善に努める。

○支援会議

生活指導部会のうち、月末に実施される会において、不登校傾向生徒の集中検討会を実施している。管理職・生活指導部メンバー・SC・SSW・不登校対応巡回教員が参加し、毎月、生徒の思いや学校の願いを踏まえながら、支援策の決定及び修正を行っている。

○校内別室

5月から校内別室を月～金の9時～15時に開室した。部屋を3スペース(学習・交流・運動)に分け、気持ちを落ち着かせる個別ブースも設置した。活動ファイルを活用し、活動内容は生徒自身が決める。自己決定の場を多く提供し、安心感と自信につなげる。

○研修動画作成と校内研修

不登校対応研修キットを基に、不登校対応に関する教員向けの研修動画を1本10分程度で7本ほど動画作成した。巡回教員によるリアル研修と、巡回日以外の職員会議などで視聴できるよう整えた。



成果

SSRの開室や支援会議の充実を図ったことで、前年度よりも登校日数が増え、目標に向けて取り組む意欲がみられている。居場所としての機能を果たし、安心して自分の思いを話せるようになった。

不登校出現率(新規)が下がり、1.12%となった。

課題

安心して通える学校・学級の居場所づくりを組織的に推進していくこと。

個別の支援計画を作成し、共通理解を図ること。